

2016 年度韓国サマープログラム報告書

北海道教育大学函館校 国際協働グループ3年 貞廣慎太郎

8月17日から31日までのおよそ二週間、漢城大学校のサマープログラムに参加しました。北海道教育大学から7名、京都府立大学から3名、九州工業大学から2名、そして中国の大学生が14名と大所帯でのプログラムでした。

基本的に午前10時から12時まで日本人講師の土井美穂先生による講義でした。最初の一時間は語学の講義でした。私は、朝鮮語の知識は全くありませんでした。このプログラムに参加する前、唯一の不安はこの点でした。しかし、土井美穂先生が一人一人の語学レベルに合わせて授業を展開してくれるため、この不安はすぐに払拭できました。発音と日常会話を中心に最後は何とか自己紹介ができるまでに上達しました。ただ、これから本プログラムへの参加を考えている方は、多少朝鮮語を学んでおけば授業だけでなく生活の面でもだいぶ楽だと思います。後半一時間の歴史や文化に関する授業はとても興味深く、授業を受けるのが毎日楽しみでした。特に領土問題に関する日韓の温度差は、メディアや教育などによっても生まれていることを知り、なかなか溝が埋まらないのは仕方のないことなのかもしれないと思いました。ただ、個人レベルで反日感情は少なく、私の韓国人のバディも終始日本を尊敬していました。その他にも、セウォル号事件の余波についてや、日韓の国民性の違い、日韓関係の未来など新しい知識を吸収することができたと思います。



明洞の教会



サムゲタン

平日の午後、そして土曜日はソウルを中心にいろいろな場所を巡りました。景福宮、北村韓屋村、民俗村などでは朝鮮時代の歴史を存分に感じることができました。ソウルタワーでは、タワーの上から景色を一望することでそれまで曖昧だったソウルの規模の大きさを実

感できました。その他にも、ノンバーバルパフォーマンスのナンタという演劇を観賞したり、ラフティングで自然に触れたり、広蔵市場で食を堪能したりと二週間を最大限に活用できました。中でも DMZ は、このプログラムで一番記憶に残った場所でした。北朝鮮の国旗と韓国の国旗を同じ場所で見ることができる展望台でしたが、そこはただの国境ではないこと、朝鮮戦争はあくまでも休戦中であるということを教えてくれました。第三トンネルを見学できたのも刺激的な体験でした。

おわりに韓国での生活について述べたいと思います。8月下旬は真夏と聞いていましたが、想像以上に暑く、最高気温が 36 度の日もありました。道民の僕にとっては耐え難い暑さでしたが、夏の思い出として記憶に残りました。ただ、教室など屋内は冷房が効いていてとても寒いので上着が一枚必要でしたので注意が必要だと思います。移動は、地下鉄の駅から学校、寮まで 15 分ほどと近くはないですが、初めての道に興味津々であったため不便さを感じることはないと思います。

宿泊場所は、完成したばかりの寮でした。とても新しく特段困ったことはありませんでした。シャワー、トイレ、冷蔵庫、洗濯機、冷暖房などは付いていて快適でした。キッチンもありますが、調理器具はないので料理をするのは難しいと思います。困ったことがあれば、プログラムの先生方が親身になって対応してくれます。実際に帰りの飛行機が欠航になったとき、必死に手配してくれました。



宿泊場所の寮

このプログラムに参加できて本当によかったと思います。初めての海外でしたが十分に楽しめました。漢城大学校の先生方は私たちが歓迎していただき、最大限に満足してもらえるようにスケジュールを組んでくれたことはもちろん、たくさんの方で好待遇をしていただきました。少しでも興味がある方は、ぜひ参加してほしいと思います。



バディと一緒に野球観戦